

自然の「恵み」と「災い」という矛盾の解決

～気候変動下におけるグリーンインフラの役割～

【開催趣旨】

環境変動は自然生態系とその恵みを駆動する重要な要素である一方、極端な変動は人間生活にとって災害という形で負の影響を与える。気候変動が顕在化する今、後者に対してどのように適応するかは喫緊の社会的な課題である。生態系の持つ機能を活用することを目指す“グリーンインフラ”は1つの解決策として注目され、概念的な枠組みの進展とともにその具体例が徐々に各地で蓄積されつつあるが、一般社会への十分な情報発信は不足している。また、流域治水の思想や方針とグリーンインフラ、生態系・生物多様性の保全が両立するためにキーとなる観点の十分な整理も必要である。本シンポジウムでは、気候変動下の治水・利水、土地管理方策、生態系保全に精通する専門家を国内外から招聘し、関連する事例、思想、そして技術を共有する。そして、各発表内容に基づき、パネルディスカッションを通じてテーマへの解決策を探り、我が国の土地利用や河川特性に合致した未来像の具現化を推進したい。

【プログラム】 ※休憩 / 14:10-14:20、15:10-15:25、16:15-16:30

●趣旨説明 <13:00-13:10>

根岸 淳二郎 (北海道大学大学院 環境科学院 准教授)

●講演

①オランダにおける気候変動を考慮した水災害対策とグリーンインフラ <13:10-14:10>

Durk Riedstra (オランダ公共事業局 氾濫リスク管理分野 シニアアドバイザー)
Carina Verbeek (オランダ公共事業局 氾濫リスク管理分野 シニアアドバイザー)

②気候変動下における物理・統計的手法による確率雨量と洪水氾濫リスクの評価 <14:20-14:45>

山田 朋人 (北海道大学大学院 工学研究院 准教授)

③気候変動下での我が国の水災害対策にとってグリーンインフラは効く薬か、苦い薬か、プラセボか? <14:45-15:10>

藤田 光一 (公益財団法人 河川財団 河川総合研究所 所長)

④グリーンインフラの価値を高める生態系管理 <15:25-15:50>

西廣 淳 (国立環境研究所 気候変動適応センター 室長)

⑤グリーンインフラの価値を高める空間計画 <15:50-16:15>

石山 信雄 (独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 研究主任)

●パネルディスカッション <16:30-17:15>

パネリスト：上記②～⑤の講演者4名

コーディネーター：中村 太士 (北海道大学大学院 農学研究院 教授)

●閉会 <17:30>

日時：2021年9月21日(火) 13:00～17:30

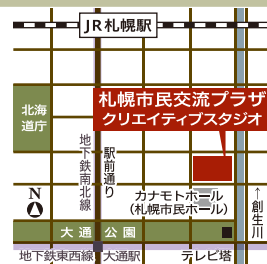
場所：札幌市民交流プラザ・クリエイティブスタジオ (札幌市中央区北1条西1丁目)

ZOOMを使い、会場参加者数に制限を設けた上で、会場発表をライブ配信します。

*緊急事態宣言の発令を受け、8/25付けでオンライン開催となりました。

会場定員：100名(先着順) * 参加費：無料

オンライン参加者募集中



【申込み】 応用生態工学会札幌大会 HP <https://confit.atlas.jp/guide/event/eces2021/top>

または メール sapporo2021@ecesj.com <氏名、所属、連絡先(メール、電話番号)をご記入ください>

【講演者等プロフィール】

根岸 淳二郎（北海道大学大学院 環境科学院 准教授）

神奈川県生まれ。博士（地理学）。

2002年シンガポール国立大学自然地理学専攻博士課程修了、2006年独立行政法人土木研究所自然共生研究センター研究員、2009年北海道大学大学院地球環境科学研究院 GCOE 特任助教を経て、2013年より現職。

主に淡水域生態系の持続的な利用、生態系管理に必要な科学的情報の収集と研究に携わる。対象生物は、無脊椎動物（昆虫、甲殻類、貝類）から脊椎動物（魚類）まで幅広く、群集構造、個体群動態、および化学的組成や遺伝子情報を解析している。

趣味はサイクリング、史跡巡り。



Durk Riedstra（オランダ公共事業局 氾濫リスク管理分野 シニアアドバイザー）

オランダ・フリースラント州生まれ。

1993年民間研究所の研究員、1999年コンサルタント企業 DHV のアドバイザー、2002年国立公衆衛生環境研究所の産業リスク管理に関するシニアアドバイザーを経て、2009年より現職。

これまでオランダ国内の洪水リスク管理に関する様々なプロジェクトに携わり、デルタプログラムでは人命リスクと洪水防御基準の調整を担当。現在は、避難戦略についてのいくつかのプロジェクトに携わる。

趣味はサッカー、朝のウォーキング。休暇時はスイスやオーストリアの山へハイキング。良い風が吹いている日はウィンドサーフィン。



Carina Verbeek（オランダ公共事業局 氾濫リスク管理分野 シニアアドバイザー）

オランダ・ヘルダーラント州生まれ。

2012年オランダ公共事業局へ入局後、2013年「the Room for the River」プロジェクトのアドバイザーを経て、2014年より現職。

「the Room for the River」プロジェクトでは環境部門のアドバイザーとして、利害関係者や住民との調整等を担当。現在は、デルタプログラムにおいて、治水対策に環境、利水、舟運、レジャー利用等の機能との組み合わせることに焦点をあてた計画を担当。

趣味は料理と食べること（日本料理も好き）、読書、セーリング（川や湖、海）、オランダやスイスアルプスでの長距離のハイキング。



山田 朋人（北海道大学大学院 工学研究院 准教授）

神奈川県生まれ。博士（工学）。

2007年東京大学大学院工学研究科社会基盤学専攻博士後期課程修了。その後、NASAゴッダード宇宙飛行センターにおける博士研究員を経て、2009年に北海道大学大学院工学研究科准教授として着任。2011年から現職。専門は水文気象学、河川工学、水工水理学、地球流体力学。「地球水循環システムの解明」、「災害をもたらす極端な水文・気象現象の物理過程の解明」、「気候変動予測情報に立脚した洪水リスク評価の手法論の構築」を始めとした多岐に亘る分野の研究を推進している。

2019年6月20日にドイツ・ボンにて開催された「国連気候変動枠組条約第50回補助機関会合」に政府代表団の一員として参加し、一連の気候変動予測研究や、その結果を踏まえた今後の治水計画に係る検討内容を紹介した。この他、「北海道開発局 北海道地方における気候変動予測（水分野）技術検討委員会」、「国土交通省・北海道 北海道地方における気候変動を踏まえた治水対策技術検討会」、「国土交通省 気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」等、多数を歴任している。

趣味：自然に触れること、スポーツ全般（サーフィン、スキー、スノーボード、テニス、水泳など）、読書、旅、など



藤田 光一（公益財団法人 河川財団 河川総合研究所 所長）

東京都生まれ。博士（工学）。

1983年東京工業大学大学院修士課程修了、同年建設省入省、建設省土木研究所河川部河川研究室研究員、1993年東京工業大学博士（工学）の学位を取得、1997年建設省土木研究所河川部河川研究室室長、2000年建設省中部地方建設局三重工事事務所所長、2003年国土交通省国土技術政策総合研究所河川環境研究室室長、環境研究官、流域管理研究官、河川研究部部長、研究総務官、所長を経て、2018年より現職。河川工学や河川管理に関する研究・政策を背景に、技術指導、各種講演会・学会発表や後進育成等に精力的に取り組んでいる。

趣味は野菜を作って食べること、里山を歩き写真撮ること。



西廣 淳（国立環境研究所 気候変動適応センター 室長）

千葉県生まれ。博士（理学）。

1999年筑波大学大学院生物科学研究科博士課程修了、同年建設省土木研究所環境部研究員、2001年国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部研究員、2001年東京大学大学院農学生命科学研究科助手、2013年東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授、2019年国立環境研究所気候変動適応センター主任研究員を経て、2020年より現職。

樹林、草原、水田・湿地、水路・小河川といった里山の生態系の機能を気候変動適応の視点から評価する研究を行うとともに、自治体や住民の方々と連携した社会実装を進めている。

趣味は尺八演奏。



石山 信雄（独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 研究主任）

福岡県生まれ。博士（農学）。

2010年北海道大学農学院環境資源学専攻博士課程修了、2014年北海道大学農学研究院森林生態系管理学研究員を経て、2019年より現職。「淡水生態系の保全・再生」をメインテーマとし、流域内の河川、湖沼、水路など様々な水域でフィールド調査を行っている。近年は特に、土地利用変化、生息地の分断化、気候変動等の人為的影響やそれらの複合作用が水生生物に与える影響について研究を進めている。

趣味はおいしい自然の恵み探し（釣り、山菜取り、きのこ取り等）、おいしいビール探し。



中村 太士（北海道大学大学院 農学研究院 教授）

愛知県生まれ。博士（農学）。

1983年北海道大学大学院農学研究科林学専攻修士課程修了、1984年北海道大学農学部助手、1987年北海道大学博士（農学）の学位を取得、1989年北海道大学農学部講師、1990年日本学術振興会海外特別研究員、1992年北海道大学農学研究科助教授、2000年同教授を経て、2006年より現職。

1990～1992年にオレゴン州立大学で生態系管理学を学ぶ。森林と川のつながり等、生態系間の相互作用を土地利用も含めて流域の視点から研究している。流域一貫の思想を提唱し、それを裏づける生態系管理の方法を提示して、荒廃した水辺環境の修復に貢献した研究成果を公表してきた。

趣味は嫁に連れて行かれる釣り、最近は雑木林での伐倒と薪づくり、キノコ、山菜取り。

